こぼれ話

シニア世代の間でも筋力アップのトレーニングに通う人が増えていると聞く。転倒防止、つまずき防止などを考え文字通り「転ばぬ先の杖」として頑張っている。またより積極的な意味合いで、若い頃に身に付けたゴルフの腕前をいまでは健康維持につなげるために定期的に取り組んでいる人も少なくない。そんなことで競い合い、励まし合っているメンバーが久しぶりにゴルフで腕を競い合った。斉藤さんと伊藤さんの二人とその仲間は目いっぱい頑張った。結果は大きな差をつけて斉藤さんが勝者となった。敗れた伊藤さんは非常に悔しがった。そして言った。「実力は同じ程度なはずだ。なんでこんたに差がついたのか不思議だ」と。間髪入れずに勝者の斉藤さんが解説した。「最初っから差がついでんだ～がや」と。「（最初から差がついてる？）」（さいとう／いとう・・か！）

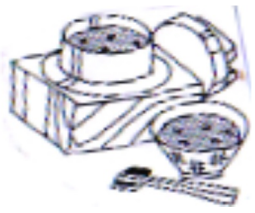
わが家の一品

【白菜とじゃがいも、ベーコンのバター入り鍋】

［材料］白菜、じゃがいも、ニンジン、ベーコン、塩コショウ、コンソメスープの素、出汁の素、バター、みりん。

［つくり方］雪がちらつく季節に一気になりましたね。手足も冷たくなりやすく、ますます鍋物がいいですよね。簡単で温まるわが家の一品を紹介します。①白菜とニンジン、ジャガイモは普通に洗い、切っておきます。②鍋に水、コンソメを入れ火をつけます。そこにジャガイモとニンジンを入れ、のちに白菜を入れます。③火が通り始めたらベーコンを加え、それに塩コショウ、みりん少々、出汁の素を入れ静かに煮込みます。④バターを加え風味たっぷりに仕上げます。

（日の出町／K・T）



秋サケ漁も不漁で大ピンチ！急いでセーフティーネット再構築の検討開始を。

落合議員

広域行政議会／ゴミ減量と消防指令センターを視察

我孫子市と盛岡市に先進地視察

11月15日～17日、宮古広域行政組合議会（竹花邦彦議長）は千葉県我孫子市にゴミ減量化のとりくみを、盛岡地区広域消防本部内の県央消防指令センターで、消防指令業務の共同運用のとりくみを視察、研修しました。

同組合議会議員の落合久三議員の視察報告の要旨を紹介します。

盛岡地区・奥州金ヶ崎地区・北上地区5市7町で共同運用／昨年6月より

この指令センター業務内容を端的に言えば、管轄内からの119番通報のすべては消防指令センター（盛岡市）で受信し、災害場所を特定したうえで、現場に最も近い消防本部・消防署に出動指令を迅速に行うものです。

その流れは、○市民からの通報受付（通報者の住所、付近の地図が瞬時に指令センター画面に表示される）。○災害の種別決定（通報内容から火災・救急・救助などを判断決定）。○災害発生地点の決定（通報内容から住所や付近の目標物などから災害発生地点を特定する）。○出動隊を編成する（災害種別・規模に応じた最適な出動隊を出向中の車両を含め自動的に編成する）。○出動隊への指令を出す（対象となる消防署内に詳細な指令内容を伝達する。車輌の端末にも災害地点の地図や指令内容が表示される）。○出動（指令を受けた出動隊は端末で現場への最短コースを確認し、現場に急行する）、というものです。

119番通報受付件数は年間3万3453件／一日平均100件超

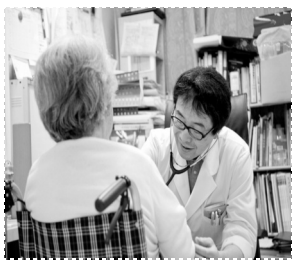
昨年6月から今年5月末までの実績は表題の通りです。

（つづく）

国保税試算

県が来年度保険税額試算発表／一人95869円

前年度対比で▽4267円



11月18日の岩手日報紙上に、来年度の各市町村の国民健康保険税額の試算が発表されました。県の試算によれば宮古市のそれは、一人当たり年間9万5869円で、前年度対比で▼4267円の減と報道されました。

来年度から国保運営の主体は県に

県の試算で前年度より増額となるのは5市町～大船渡市、釜石市、花巻市、遠野市、矢巾町です。

全国的に見て約6割の市町村国保会計は赤字で、それを一般会計からの法定外繰り入れなどで支えているのが現状です。

来年度から市町村の国保の仕事は、○県が市町村に対し「納付金」を提示する。○市町村はその納付金をまかなえる保険料率を決める。○そして市町村は保険税を市民から徴収する。○県に対して納付金を全額納める、となります。

今回示された保険税額は試算であり、かつ県の示す「納付金」の額もまだ提示されていません。国保会計の厳しさの主要な原因は国庫支出金削減

本来、社会保障制度の重要な根幹である国民健康医療保険制度が大きな困難を抱えているのは、国が様々な理由をつけて国庫支出金を削減してきたからです。「暮らし守る防波堤」としての自治体の役割が問われます。

読者の文芸欄

短歌　金沢邦臣（田鎖）

●水害はみな一様に襲いくる老い二人のみの吾の家にも

●泥雑巾取りかえ取りかえ絞る吾手くびの力遂に果てたり

自注／昨年の十号台風をまともにくらったから、今年は天気に敏感です。少こしの雨風にびくびくすごしています。

つり情報

田老・青野滝の明神崎に二人の釣り吉が挑戦。19日朝6時半到着だ。急降下する南斜面でなく北側の比較的安全なポイントである。実に7年ぶりにこのポイントに出かけた。「津波以降なんとなく遠のいでいだのす」

エサはイソメと塩サンマの切り身。磯竿をそれぞれ2本用意。第1投は7時15分。互いに1本は足場を狙い、もう1本は少し遠くに入れる。相棒の足元の竿が結構な引きで動く。22㌢のアイナメが来た。イソメで良し、塩サンマで良し。これがアイナメだ。午後3時収竿。二人でアイナメのみだが二本の釣果。

「サイズが20㌢前後。鍋で塩ゆですて大根おろしと男山す。まあこれからだがね」。行ぐべ！